

8月



## あの日のあの川 リレー日記 ～第 69 話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第 69 話主人公 丸山達也

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：沖縄県源河川)

### 「黒南風」

いつのこと？：小学生高学年

どの川？：沖縄県源河川

玉置さんからバトンを受け取りました。白川研究室の丸山と申します。今回は私が幼少期よく川遊びをしていた川についてお話しさせていただきます。

私の地元で流れている「源河川」とは沖縄県名護市を流れる二級河川であり、方言では“じんかがー”などと呼ばれています。生物はアオボラヨシノボリ、ナゴノゴリ、アヤヨシノボリ、台湾キンギョ、タウナギ、リュウキュウアユなどが生息しています。私の幼少期源河川には家族や親戚とキャンプに行ったり、川遊びをしたり、釣りをしに行ったりしていました。当時この川はなんとと言っても飛び込みがとても有名で、小学生から大人まで飛び込みをして遊んでいました。特に面白かったのが、気にかかったツル（ロープ？）のようなものにぶら下がり女装をつけながらターザンのように飛び込んで楽しんでいたので鮮明に覚えています。

とても楽しい思い出ばかりの川ですが一度この川で迷子になったことがありました。その時は普段遊んでいる場所よりも上流で遊んでおり、流れが早くて地形も大きい場所でした。普段遊んでいる場所に飽きてしまった私は一人で川をのぼり、夢中でそこに住む魚や植物に見入っていました。

しかし気づいた時にはあたりは暗くなり始めており川の水温も低下していました。来た時の友好的な情景から一変し、私を飲み込んでしまうような自然の猛威を感じ、急いで元の場所に帰ろうとしましたがいくら川を下っても元の場所につきそうにありませんでした。実はこの時私ははっきり川を登っていたと思いこんでいましたが、実際は元の場所から下っており逆方向に進んでいました。

いくら進んでも辿り着く様子がなく、気持ちが切れその場でうずくまっていたところを、しばらくして私の兄が私を発見し助けられました。帰りに両親にこっぴどく叱られ、それ以来川や海では視界を広げ安全第一で行動するようになりました。

まだまだ夏が続き、海や川に遊ぶ機会があると思いますが、楽しい思い出になるのか一生後悔する思い出になるのかは自分の行動次第です。何よりも安全第一に行動できるように心がけて楽しみましょう。

(次は仙北周平さんにバトンを託します)